

Fetchの使い方—— UNIXへ保存する

東京理科大学 物理学教室

平成12年10月18日

学生実験ではコンピューターで測定・編集したデータの保存先を UNIX 上の各自のホームディレクトリ^[1]としています。ここで言う UNIX 上のホームディレクトリとは Windows NTの (Z:) ドライブのことです。

自分達で作成したデータは終了する前に UNIX 上に 保存し、コンピューター上からは削除して下さい。消し忘れたデータは、こちら で勝手に削除してしまうので、くれぐれも保存し忘れたという事のない様、気を付けて下さい。

ここでは、コンピューターからUNIXへデータを保存する為に使う、Fetchというソフトの使い方を説明します。

UNIXとコンピュータを接続する

コンピューターと UNIX は、学内 LAN を用いて接続します。学内 LAN の中で UNIX と Windows NT は繋がっています。その為、私たちは UNIX で保存したファイルを Windows NT で見る事が出来ます。

Fetch は LAN で繋がれたコンピューター間でデータをやり取りするためのソフトウェアです。保存先は UNIX 上ですが、UNIX と Windows NT は繋がっていますから、保存したファイルを Windows NT から MO やフロッピーにおとして自宅へ持ち帰る事も出来ます。

^[1] 学生が持てるディスク・スペースは 20M に制限されています。もし 20M を越えてしまうと、ログインが出来なくなります。自分の ディスク・スペースがどれ位残っているのか、常に把握するようにしておきましょう。また Windows NT はログインする際に、独自のプロファイルを約 3M ほど作成します。したがってWindows NTにログインする場合、自分のディスク・スペースは 17M までしか使えません。Windows NT の使用者はその点にも注意を払って下さい。

自分のディスク・スペースの確認は UNIX では quota コマンドを使います。万が一 20M 以上使ってしまったらログインが出来なくなったら、コンピューター相談員に聞か、近代科学資料館地下1階に来て下さい。

Fetch を起動する前に

まず最初にコンピューターが学内 LAN に繋がっている事を確認します。LAN ケーブルがコンピューターと情報コンセントにささっているか確かめて下さい。

LAN ケーブルが繋がっていなかったら、LAN を繋げるようにして下さい。LAN ケーブルがなかったり、どこに挿すのか分からない場合は TA の方に聞いて下さい。

Fetchの起動

デスクトップ上に「Fetch 3.0.3」にエイリアス(ショートカット)があります(図1)。このアイコンをダブルクリックすることでFetchが起動します。



図 1

UNIXへの接続

Fetchを起動すると「New Connection」ダイアログが表示されます(図2)。

A screenshot of the "New Connection" dialog box. The title bar reads "New Connection". The main text says "Enter host name, userid, and password (or choose from the shortcut menu):". There are four input fields: "Host:" with the value "sutkt000.ed.kagu.sut.ac.jp", "User ID:" (empty), "Password:" (empty), and "Directory:" (empty). At the bottom, there is a "Shortcuts:" label with a dropdown arrow, and two buttons labeled "Cancel" and "OK".

図 2

User IDとPasswordを入力して下さい(図3)。「OK」ボタンをクリックするとUNIXへ接続されます(図5)。

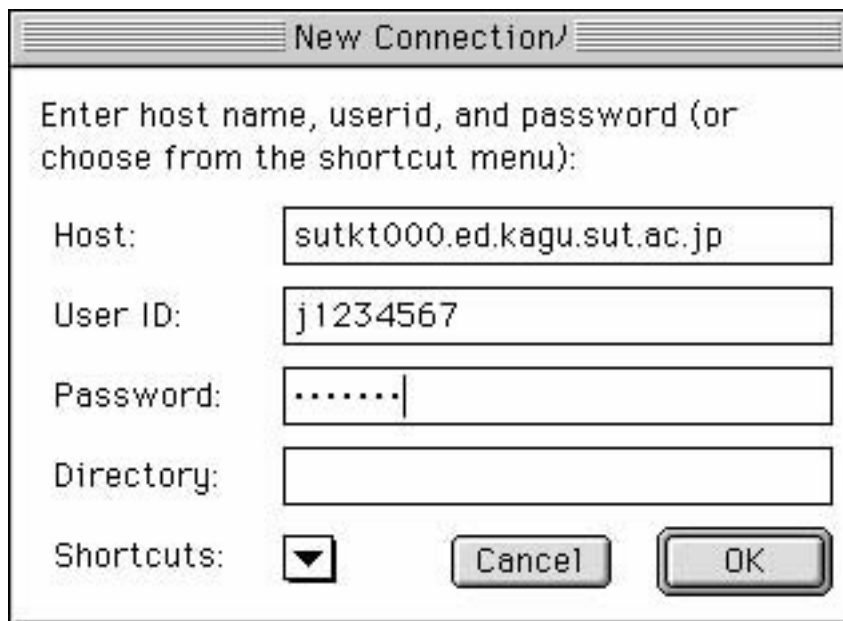


図3

図2のダイアログが出ない場合もしくは「キャンセル」ボタンで消してしまった場合は「File」メニューより「New Connection」を選んで下さい(図4)。「New Connection」ダイアログが表示されます。

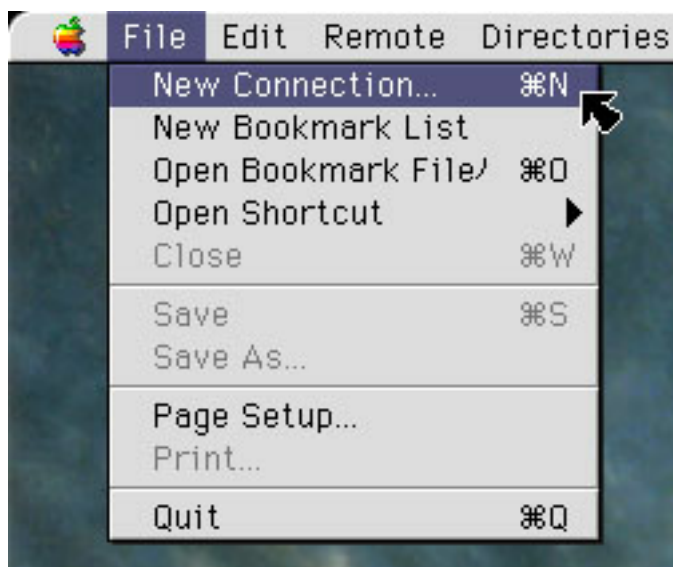


図4

UNIXへデータを保存

UNIXへ接続すると図5のようなウィンドウが表示されます。

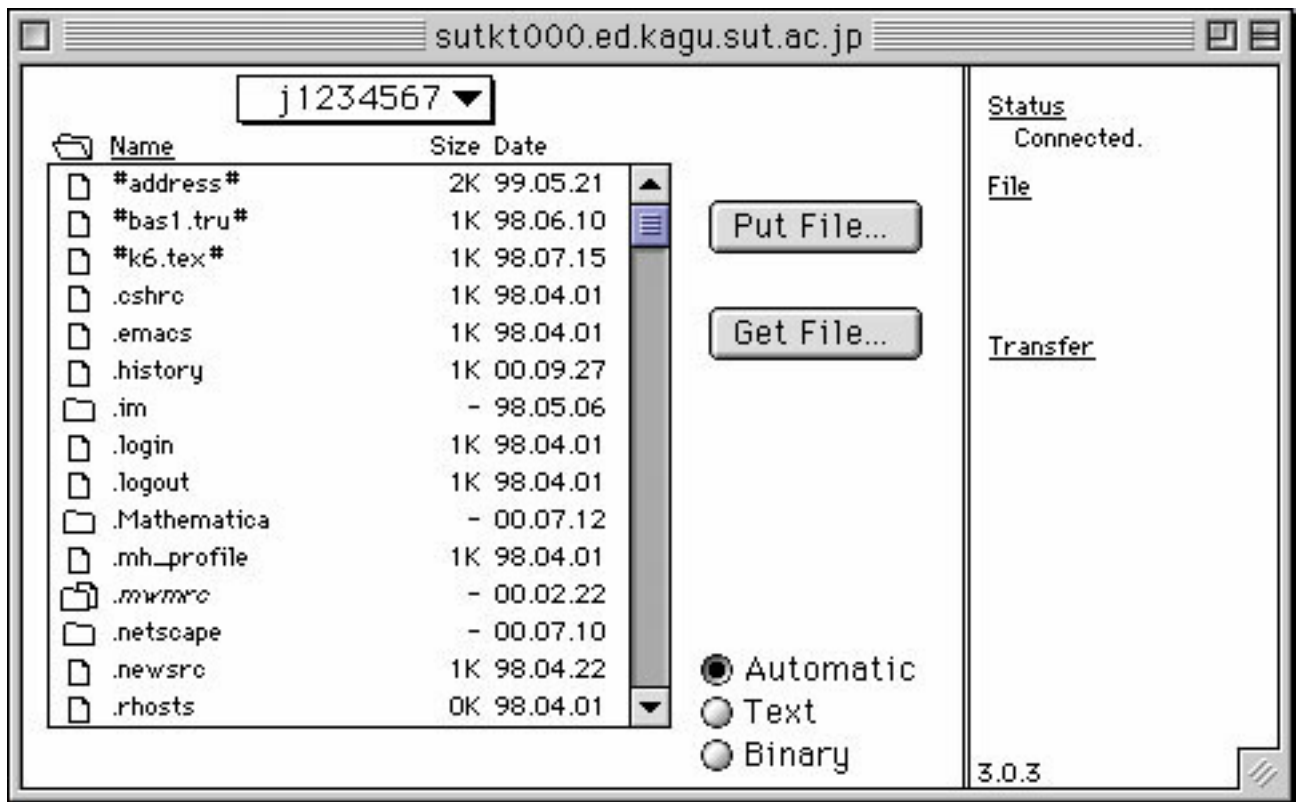


図5

ファイルの一つ保存する場合は「Put File...」ボタンをクリック下さい。ファイル選択のダイアログが表示されます(図6)。



図6

保存したいファイルを選んで(図7)、「開く」をクリックすると図8のダイアログが表示されます。保存するファイルの「Format」は「BinHex」にして下さい。「OK」をクリックすると、保存されます。

ここでは「_0630.2」をBinHex形式で保存しようとしています。保存が終われば、図9のように左側のリストボックスに「_0630.2.hqx」が追加されています。

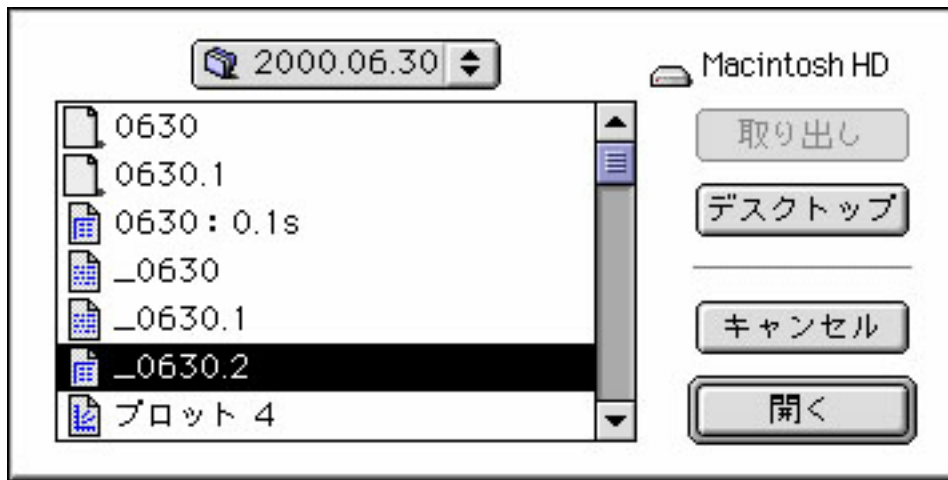


図7

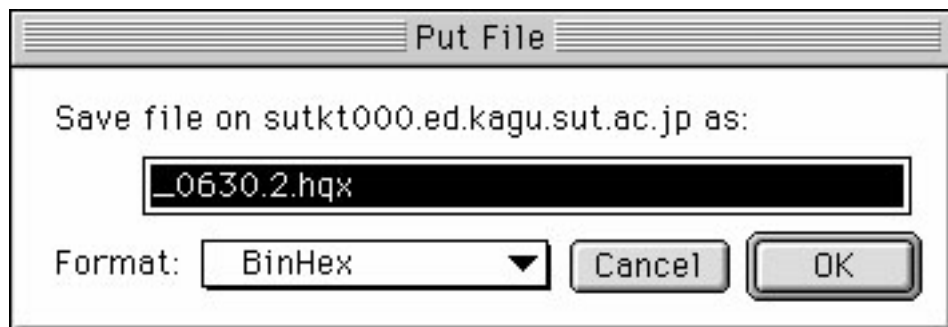


図8

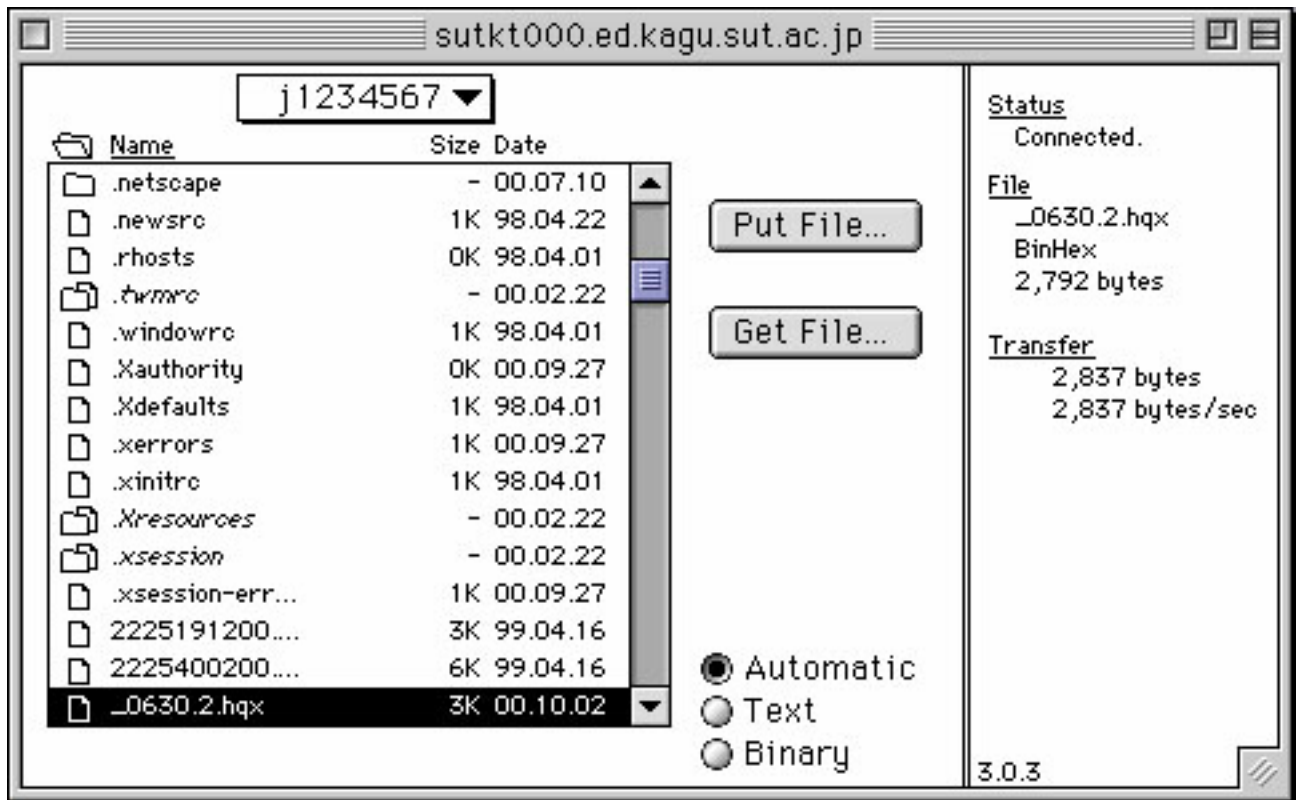


図 9

ファイルをまとめて保存する場合、画面上部のメニューの「Remote」から「Put Folders and Files...」を選択して下さい(図10)。図11のダイアログが表示されます。

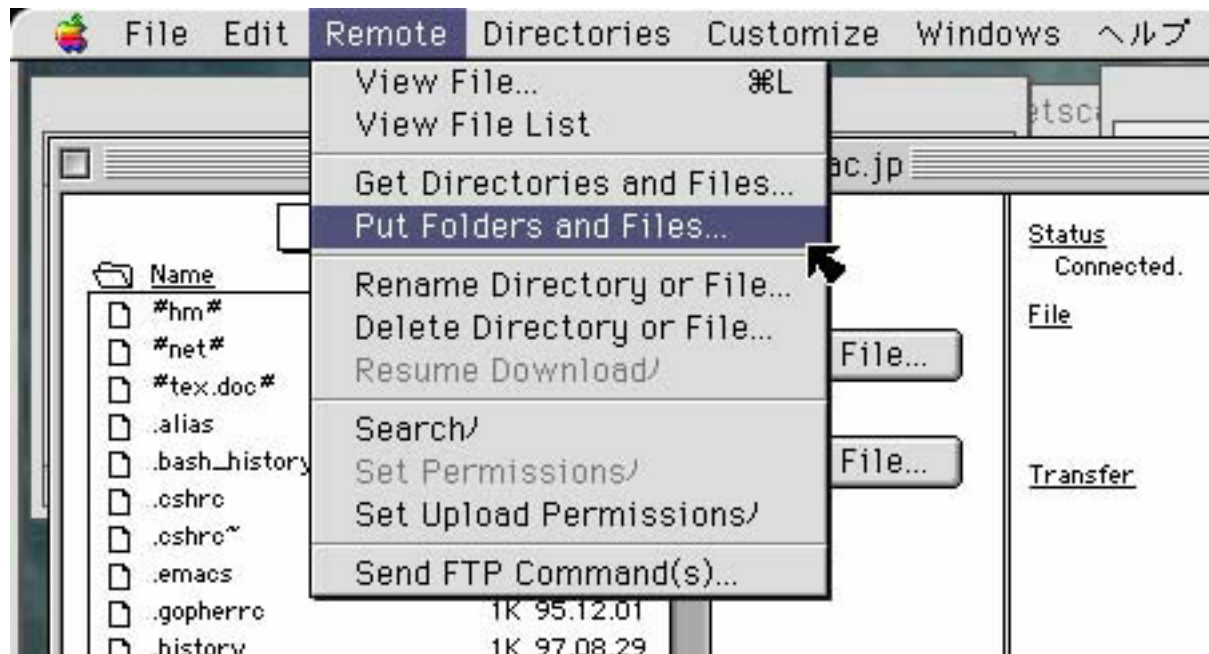


図 10

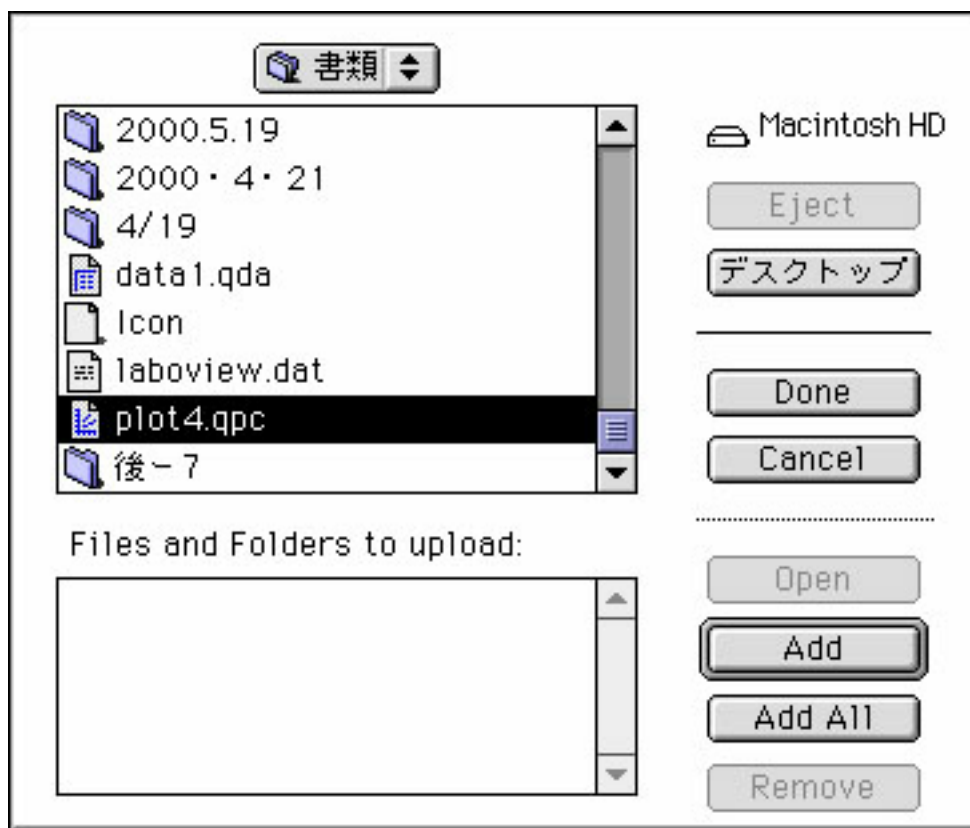


図 1 1

上側のリストボックスから保存するファイルを選択し、「Add」ボタンをクリックして下さい。下側のリストボックスにファイル名が追加されます(図 1 2)。

この図では「data1.qda」と「plot4.qpc」を選択しています。

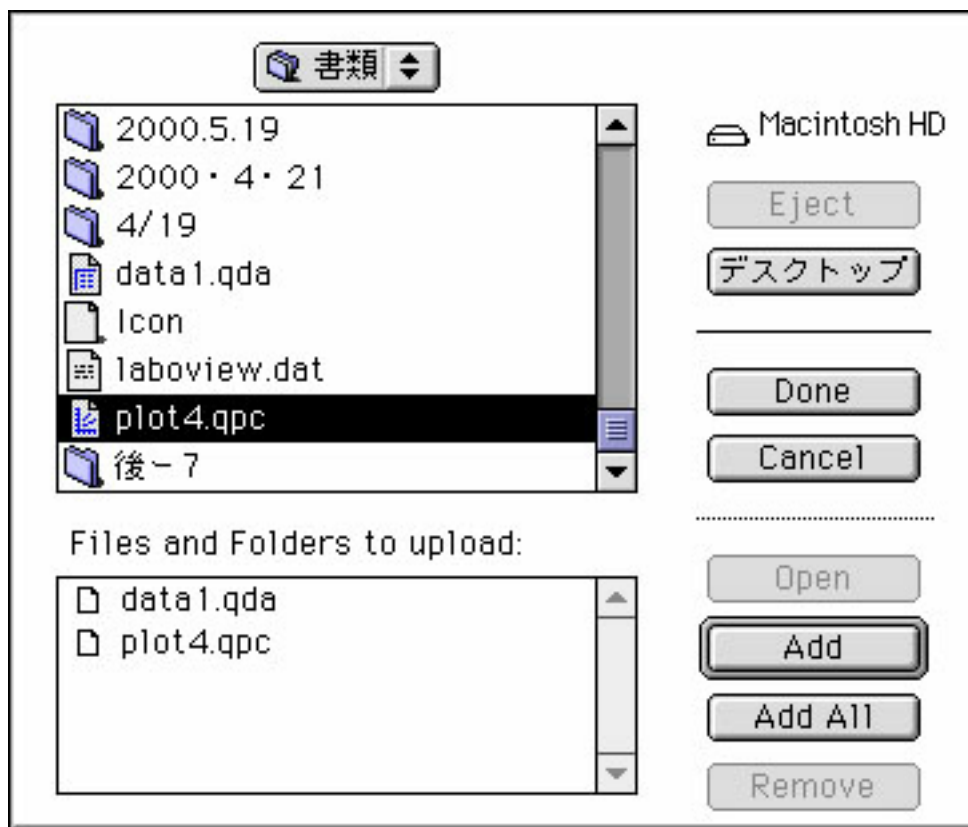


図 1 2

保存するファイルを全て選択したら、「Done」ボタンをクリックして下さい。図 1 3 のダイアログが表示されます。保存するファイルの「Format」は、テキストファイルは「Text」形式、その他のファイルは「BinHex」形式で保存して下さい。「OK」ボタンをクリックすると保存され、図 9 と同様にファイルが追加されています。

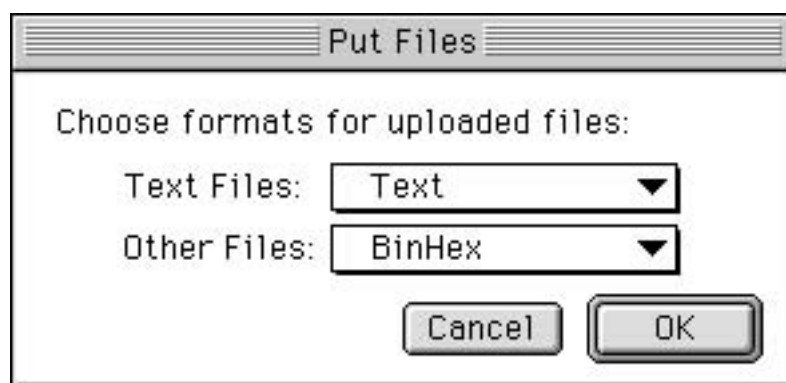


図 1 3

保存したデータを取り出す

保存しておいたデータを取り出す場合、図14のリストボックスのファイル名をクリックして取り出したいファイルを選択します。(この図では、「_0630.2.hqx」を選択しています。)選択したら、「Get File...」ボタンをクリックして下さい。

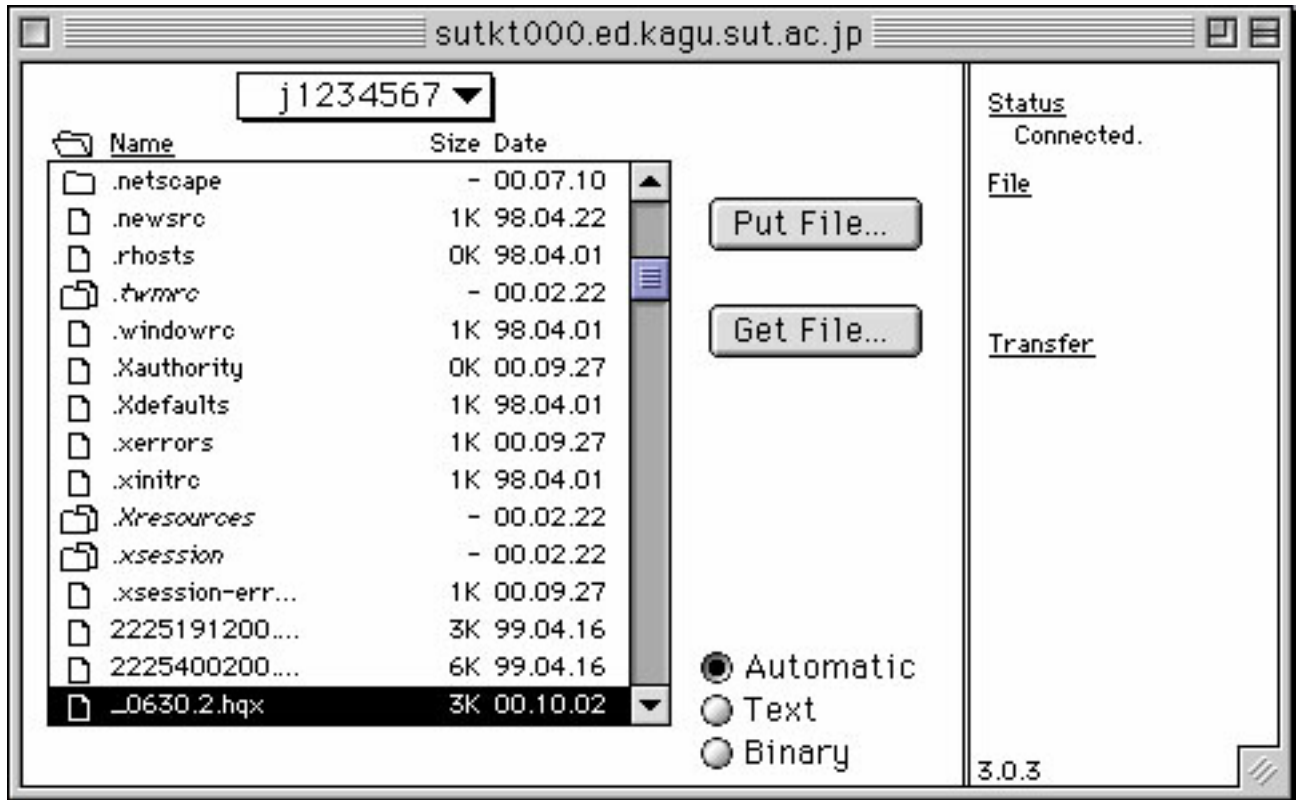


図14

図15のダイアログが表示されるので、取り出すファイルをどこに保存するか選択して下さい。ここでは「書類」フォルダに保存しようとしています。



図15